

令和7年度前学期 社会人公開授業

| | |
|-------|--|
| 科目名 | レクリエーション論 |
| 開設学校名 | 朝日大学 |
| 講師 | 保健医療学部健康スポーツ科学科 教授 築瀬 歩（やなせ あゆむ） |
| 初回予定日 | 2025年4月7日（月） |
| 授業時間 | 毎週月曜日 2時限目 10時45分～12時15分（全15回） |
| 主会場 | 朝日大学 穂積キャンパス 5号館1階 514講義室 |
| 聴講方法 | <p>対面授業 アクティブラーニング：講義内での質問に対する積極的な関与（思考・判断）とそれに対するフィードバックにより、双方向の学習をめざす。 ICT活用：朝日大学 Moodle を利用した課題などのやりとり、Google Form を用いた質問と回答へのフィードバックなどを積極的に行う。 なお、状況によっては対面と配信のハイブリッド方式で行う場合もある。</p> |
| 科目内容 | <p>本講義はレクリエーション活動とその提供・支援に関して学修することを主目的とする。本科目は講義を中心として展開されるが、双方向での議論や考察を意識した形での学習活動を目指す。</p> <p>レクリエーション活動は様々な場面で使用されるようになった。まず、レクリエーション運動の歴史や現状を把握しレクリエーション活動の使命・役割・教育的機能について学ぶ。次にレクリエーション活動に関わる指導者として活動支援に関する知識と技能の修得をめざす。そして、レクリエーション活動の支援に当たるインストラクターとその支援内容について理解を深める。</p> <p>これらの学習活動を通して、レクリエーションについての知識を持ち、実践者に対して最適なレクリエーション活動を提供し支援できる基礎的能力を養うことを目標とする。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① レクリエーションの意義を理解し、合理的で効果的な実践ができる。 ② レクリエーション支援の基礎理論を習得し、スムーズな支援ができる。 ③ 役割や考え方を理解し実践者に適したレクリエーション活動を提供できる。 |
| 注意事項 | <p>高校生は受講できません。</p> <p>授業実施日については学年暦でご確認ください。</p> <p>7月24日(木)は月曜日の15回目の授業を実施します。</p> <p>テキスト：講義の中で指示する。</p> <p>参考書：藪田碩哉他 『レクリエーション概論』ヘルス・システム研究所 2013</p> |

授業の開催日程

| 回 | 日付 | 講義テーマ |
|-----|-------|---------------------------|
| 第1回 | 4月7日 | レクリエーション論の内容と学び方 |
| 第2回 | 4月14日 | 現代社会とレクリエーション |
| 第3回 | 4月21日 | レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史 |
| 第4回 | 4月28日 | レクリエーション支援の理念と目的 |
| 第5回 | 5月12日 | レクリエーション支援の内容と方法 |
| 第6回 | 5月19日 | レクリエーション支援のプロセス |

裏面に続く

| | | |
|--------|-------------|----------------------|
| 第 7 回 | 5 月 26 日 | レクリエーション組織の仕組と運営 |
| 第 8 回 | 6 月 2 日 | レクリエーション組織の環境と課題 |
| 第 9 回 | 6 月 9 日 | レクリエーション財とレクリエーション事業 |
| 第 10 回 | 6 月 16 日 | レクリエーション・サービスの設計 |
| 第 11 回 | 6 月 23 日 | レクリエーション・サービスの提供 |
| 第 12 回 | 6 月 30 日 | レクリエーション支援者資格の理解 |
| 第 13 回 | 7 月 7 日 | レクリエーション支援の技能 |
| 第 14 回 | 7 月 14 日 | レクリエーションのプランニング |
| 第 15 回 | 7 月 24 日(木) | 社会から求められるレクリエーション |